感染症発生動向調査
2022年第19週
（5月9日～5月15日）

京都市感染症週報

京都市感染症情報センター
（ 京都市衛生環境研究所 ）

https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000175159.html

◆ 今週のコメント

・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が3,623例あり，本年の累積報告数は94,488例になりました。
本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
〇新型コロナウイルス感染症　最新の動向
https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html

・ **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**の報告が1例（50歳代女性）あり，症状は菌血症で，感染経路は不明です。本年の累積報告数は12例となりました。

・ **急性脳炎**の報告が2例（10歳未満男性2例）（第18週追加報告分含む）ありました。本年の累積報告数は2例となりました。

・ **梅毒**の報告が1例（30歳代男性）あり，感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は34例となりました。
京都市では，HIV・性感染症（梅毒・淋菌・クラミジア）検査を予約制で実施しています。詳細については，下記のホームページをご覧ください。
〇京都市情報館「京都市のHIV検査について」
https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000271215.html

・ **破傷風**の報告が1例（80歳代男性）（第16週追加報告分）ありました。症状は筋肉のこわばり，開口障害，発語障害等です。本年の累積報告数は2例となりました。

・ **小児科定点把握感染症**は，前週までと大きな変化はなく，発生数は低く推移しています。

◆ 今週のトピックス：＜ダニ媒介感染症＞

春から秋にかけてキャンプ，ハイキング，農作業など，野外で活動する機会が多くなる季節です。人がこれらのダニの生息場所に立ち入ると，ダニに咬まれることがあります。病原体を保有するマダニ等に咬まれることによって起こる病気をダニ媒介感染症といい，注意が必要です。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- **二類：結核 1例（肺結核 なし，その他結核 なし，潜在性結核感染者 1例）うち喀痰塗抹陽性 なし**
  【1月以降の累積報告数 86例（肺結核 42例，その他結核 21例，潜在性結核感染者 23例）うち喀痰塗抹陽性 16例】
- **新型コロナウイルス感染症 3,623例【1月以降の累積報告数94,488例】**
- **五類：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1例**【1月以降の累積報告数12例】
- **五類：急性脳炎 2例**【1月以降の累積報告数 2例】
- **五類：梅毒 1例**【1月以降の累積報告数 34例】
- **五類：破傷風 1例**【1月以降の累積報告数 2例】

定点把握の主な感染症

（市内定点数　インフルエンザ定点69，小児科定点43，眼科定点10，基幹定点1）

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	インフルエンザ	0	0
小児科	① 感染性胃腸炎	3．23	139
（降順5位まで）	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0．28	12
	③ 突発性発しん	0．23	10
	④ 咽頭結膜熱	0．14	6
	⑤ 水痘	0．05	2
	⑤ 流行性耳下腺炎	0．05	2
眼科	流行性角結膜炎	0．10	1

【次ページ以降の主な内容】

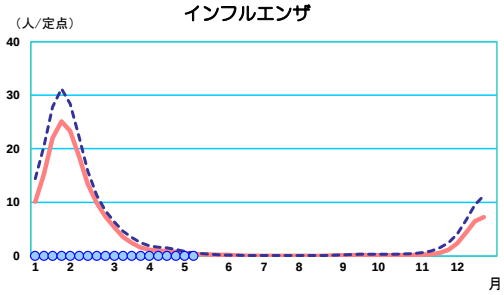
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス：＜ダニ媒介感染症＞
付表（疾病，行政区別報告数 / 年齢階級，疾病別報告数 / 週，疾病別報告数）

（ 注 ）京都市のデータは，2022年5月18日現在の報告数で，全国の還元データと若干異なる場合があります。
また，本情報での患者数は，届出医療機関所在地での集計で，患者の住所を示すものではありません。
※感染地域及び感染経路については推定を含みます。

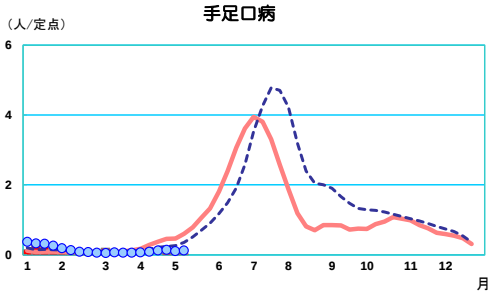
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2022年）

京都市_本年　京都市_過去5年平均値
全国_本年　全国_過去5年平均値

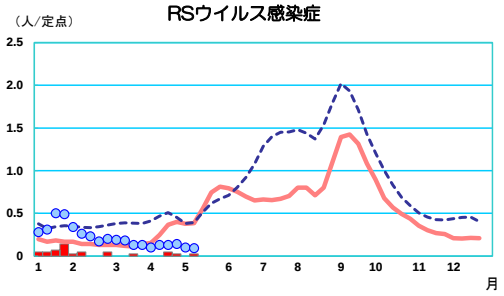
インフルエンザ



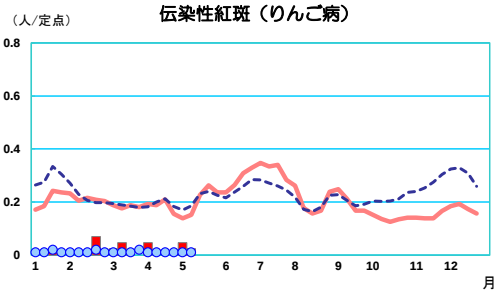
手足口病



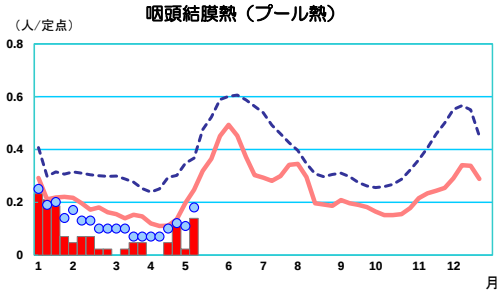
RSウイルス感染症



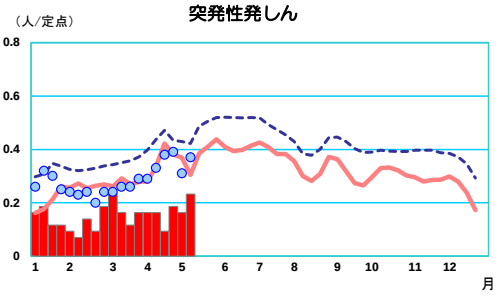
伝染性紅斑（りんご病）



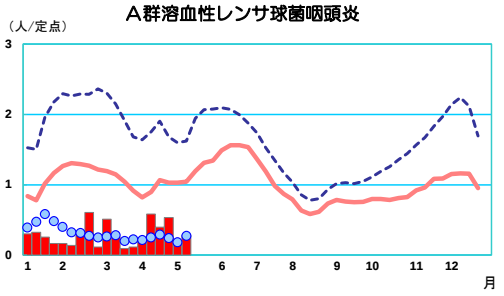
咽頭結膜熱（プール熱）



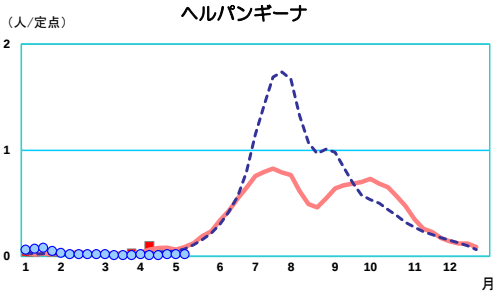
突発性発しん



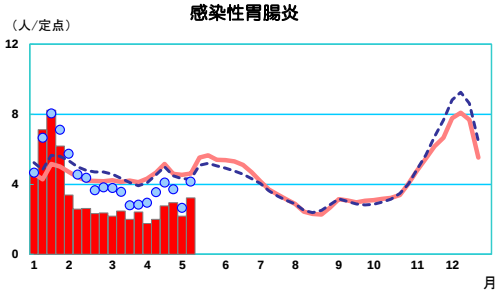
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



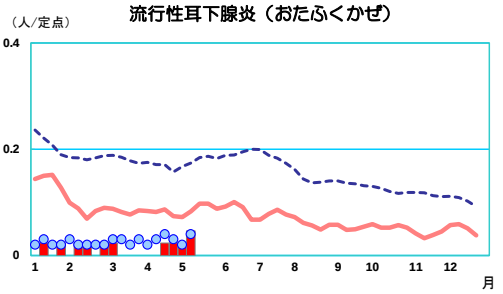
ヘルパンギーナ



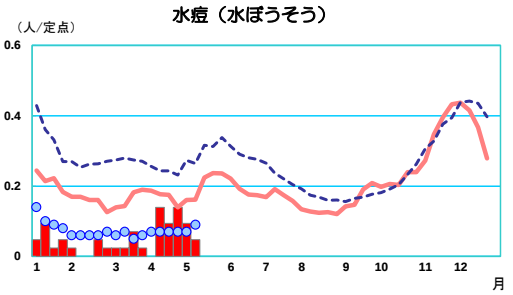
感染性胃腸炎



流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）



水痘（水ぼうそう）



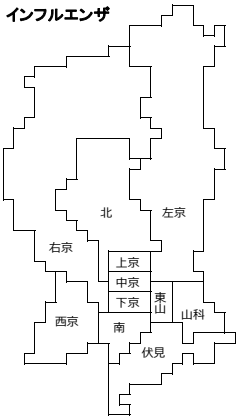
インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図　【２０２２年 第 19 週】

- 発生なし
- 発生あり
- 注意報
- 警報

（注意報及び警報の基準値は感染症右側に表示（「-」は設定なし））

定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがいまして，定点当たり報告数は医療機関の立地条件や
規模の大小の影響を受ける場合がありますので，ご注意ください。

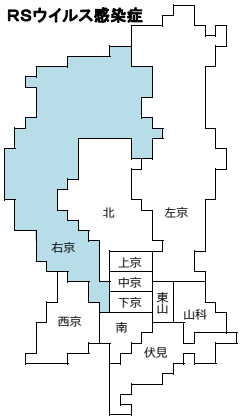
インフルエンザ



警報開始 30
警報終息 10
注意報 10

京都市 0.00	
北	0
上京	0
左京	0
中京	0
東山	0
山科	0
下京	0
南	0
右京	0
伏見	0
西京	0

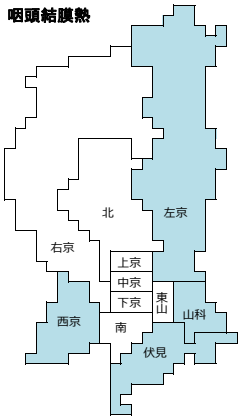
RSウイルス感染症



警報開始 －
警報終息 －
注意報 －

京都市 0.02	
北	0
上京	0
左京	0
中京	0
東山	0
山科	0
下京	0
南	0
右京	0.20
伏見	0
西京	0

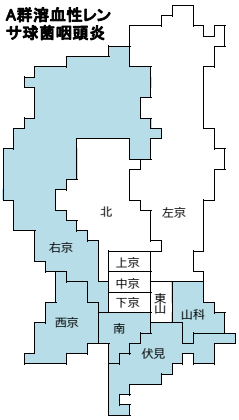
咽頭結膜熱



警報開始 3
警報終息 1
注意報 －

京都市 0.14	
北	0
上京	0
左京	0.25
中京	0
東山	0
山科	0.20
下京	0
南	0
右京	0
伏見	0.43
西京	0.20

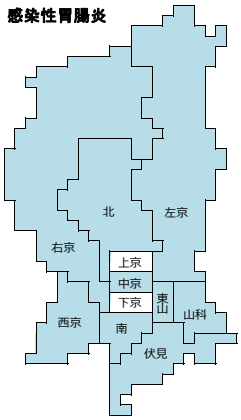
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



警報開始 8
警報終息 4
注意報 －

京都市 0.28	
北	0
上京	0
左京	0
中京	0
東山	0
山科	0.80
下京	0
南	0.33
右京	0.60
伏見	0.43
西京	0.20

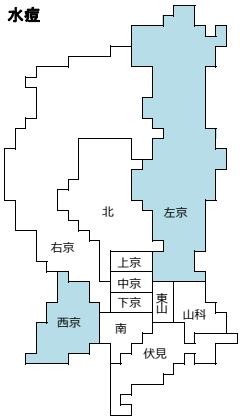
感染性胃腸炎



警報開始 20
警報終息 12
注意報 －

京都市 3.23	
北	0.50
上京	0
左京	3.00
中京	1.67
東山	2.00
山科	0.80
下京	0
南	3.00
右京	1.80
伏見	6.57
西京	9.60

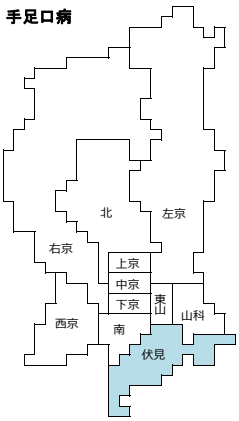
水痘



警報開始 2
警報終息 1
注意報 1

京都市 0.05	
北	0
上京	0
左京	0.25
中京	0
東山	0
山科	0
下京	0
南	0
右京	0
伏見	0
西京	0.20

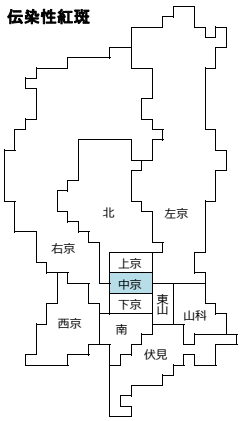
手足口病



警報開始 5
警報終息 2
注意報 －

京都市 0.02	
北	0
上京	0
左京	0
中京	0
東山	0
山科	0
下京	0
南	0
右京	0
伏見	0.14
西京	0

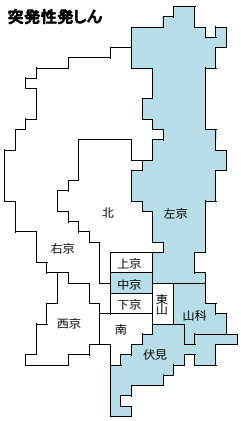
伝染性紅斑



警報開始 2
警報終息 1
注意報 －

京都市 0.02	
北	0
上京	0
左京	0
中京	0.33
東山	0
山科	0
下京	0
南	0
右京	0
伏見	0
西京	0

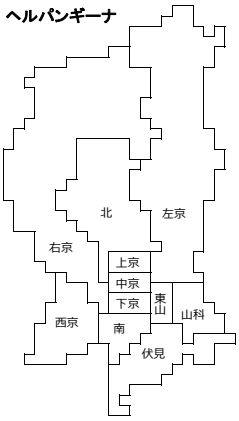
突発性発しん



警報開始 －
警報終息 －
注意報 －

京都市 0.23	
北	0
上京	0
左京	0.25
中京	0.33
東山	0
山科	0.60
下京	0
南	0
右京	0
伏見	0.71
西京	0

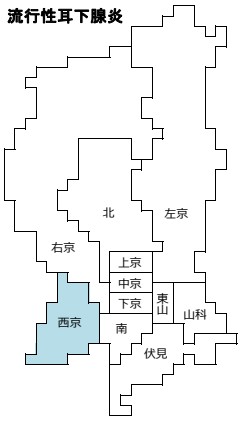
ヘルパンギーナ



警報開始 6
警報終息 2
注意報 －

京都市 0.00	
北	0
上京	0
左京	0
中京	0
東山	0
山科	0
下京	0
南	0
右京	0
伏見	0
西京	0

流行性耳下腺炎



警報開始 6
警報終息 2
注意報 3

京都市 0.05	
北	0
上京	0
左京	0
中京	0
東山	0
山科	0
下京	0
南	0
右京	0
伏見	0
西京	0.40

第19週（5月9日～5月15日） トピックス：＜ダニ媒介感染症＞

春から秋にかけてキャンプ，ハイキング，農作業など，野外で活動する機会が多くなる季節です。人がこれらのダニの生息場所に立ち入ると，ダニに咬まれることがあります。

病原体を保有するマダニ等に咬まれることによって起こる病気をダニ媒介感染症といい，注意が必要です。

ダニ媒介感染症のうち細菌*が原因の感染症には，日本紅斑熱，Q熱(きゅーねつ)，つつが虫病，ライム病，野兎病(やとびょう)などがあり，ウイルスが原因の感染症には重症熱性血小板減少症候群（SFTS），ダニ媒介脳炎などがあります。
*病原体はリケッチア，スピロヘータと分類される場合もあります。リケッチアもスピロヘータも細菌の一種です。

2016年以降，京都市では日本紅斑熱が2017年（1例），2019年（3例），2020年（2例），SFTSが2016年（1例）の報告がありました。

同時期の全国の発生状況は，Q熱，ダニ媒介脳炎，野兎病及びライム病はほとんど報告がないか，もしくは少数である一方で，SFTS，つつが虫病及び日本紅斑熱の報告が比較的多くなっています。週別累計報告数で見ると，日本紅斑熱とSFTSの報告数は5月から11月に多く，つつが虫病は10月中旬から12月にかけて急増する傾向があります（図1）。

また，地域別ではSFTSは西日本地域に集中しており，日本紅斑熱についてもSFTSほど顕著ではないものの西日本地域での報告が多くみられます。しかし両疾患ともに東日本地域からの報告も散発的にあり，感染の可能性がある地域は潜在的に拡がっていることが考えられます。つつが虫病に関しては北海道を除く全国で報告があります（図2）。

マダニやツツガムシなど，種類によって持っている病原体は異なりますが，ダニ媒介感染症に感染しないための予防策はマダニ等に咬まれないようにすることです。ダニから身を守るには長袖のシャツや長ズボンを履くなど肌の露出を少なくする，明るい色の服を着る（ダニを目視で確認しやすくなる），忌避剤（虫よけ）を使用することです。野外活動後は入浴し，マダニ等に咬まれていないか確認しましょう。

また，稀な事例ではあるもののSFTSを発症した犬や猫から人へ感染する事例が報告されています。ペットにもダニ駆除剤や忌避剤を定期的に使用し，過剰な触れ合い（口移しでエサを与えたり，布団に入れて寝たりすることなど）は控えてください。動物に触ったら必ず手を洗いましょう。

野山で活動した後は体調の変化に注意し，発熱等の症状があれば医療機関を受診して下さい。マダニ等に咬まれた場合は，無理に引き抜こうとせず，医療機関で処置（除去，洗浄など）してもらいましょう。

〇京都市情報館ホームページ「マダニについて」
https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000240343.html

図1　全国の週別報告数の累計（2016年～2022年第19週）

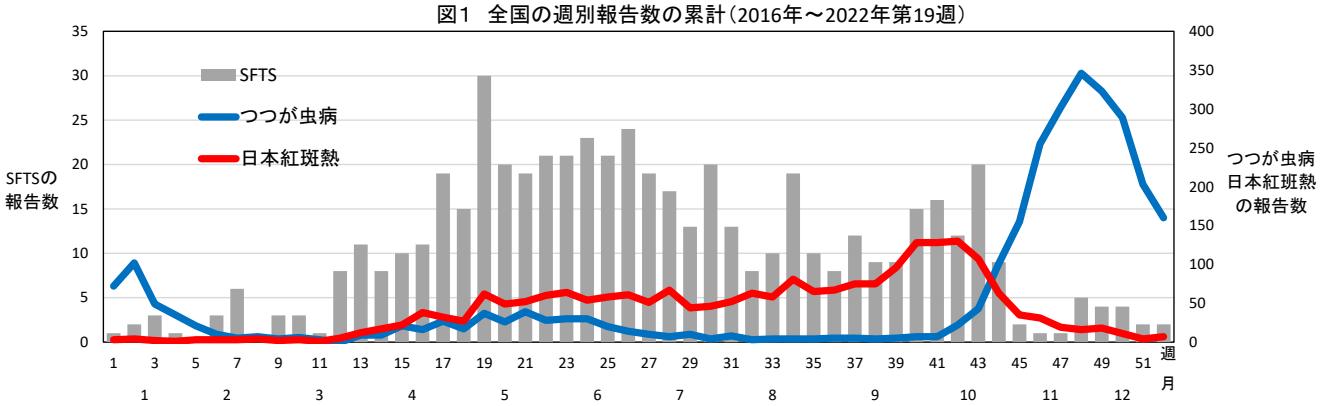
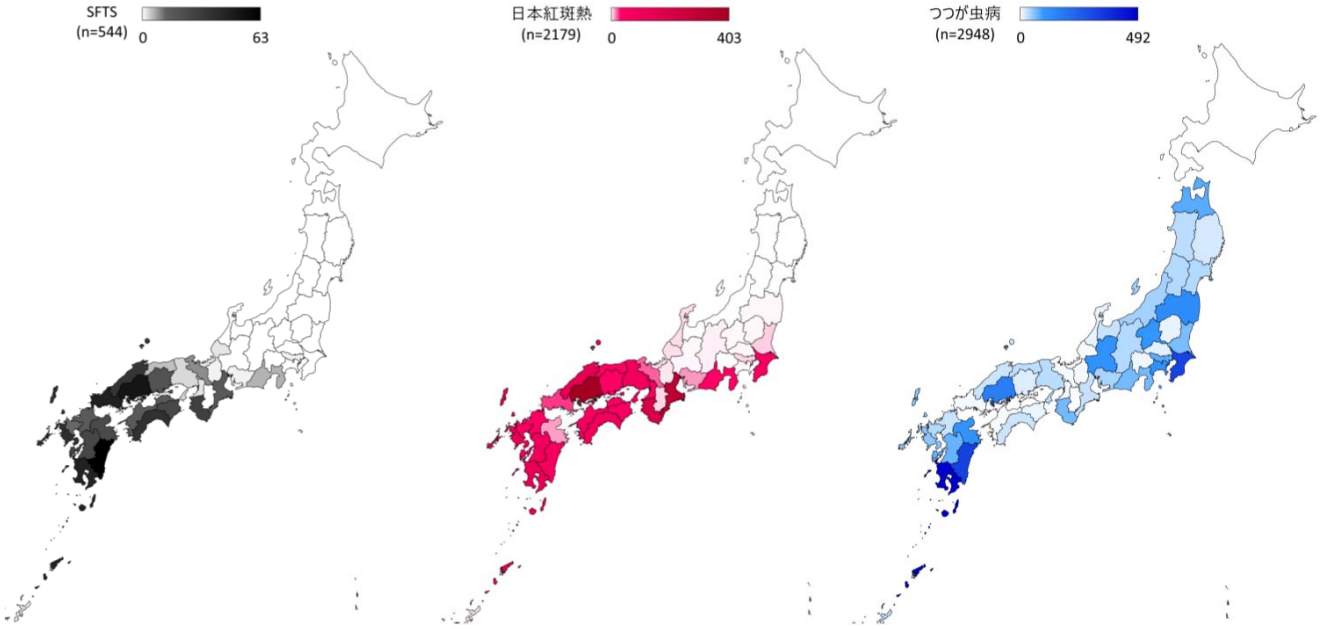


図2　SFTS，日本紅斑熱，つつが虫病の地域別累計報告数（2016年～2022年第19週）



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第19週

疾病,行政区別報告数　　2022年5月9日～2022年5月15日　　データ入手日:2022年5月18日

男女合計	インフルエンザ（※1）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
北	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−					
上京	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−					
左京	−	−	1	−	12	1	−	−	1	−	−	−	−					
中京	−	−	−	−	5	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
東山	−	−	−	−	4	−	−	−	−	−	−							
山科	−	−	1	4	4	−	−	−	3	−	−	−	−					
下京	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−							
南	−	−	−	1	9	−	−	−	−	−	−							
右京	−	1	−	3	9	−	−	−	−	−	−	−	1					
伏見	−	−	3	3	46	−	1	−	5	−	−	−	−					
西京	−	−	1	1	48	1	−	−	−	−	2	−	−					
京都市計	−	1	6	12	139	2	1	1	10	−	2	−	1	−	−	−	−	−

疾病,行政区別定点当たり報告数

男女合計	インフルエンザ（※1）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
北	−	−	−	−	0.50	−	−	−	−	−	−	−	−					
上京	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−					
左京	−	−	0.25	−	3.00	0.25	−	−	0.25	−	−	−	−					
中京	−	−	−	−	1.67	−	−	0.33	0.33	−	−	−	−	−	−	−	−	−
東山	−	−	−	−	2.00	−	−	−	−	−	−							
山科	−	−	0.20	0.80	0.80	−	−	−	0.60	−	−	−	−					
下京	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−							
南	−	−	−	0.33	3.00	−	−	−	−	−	−							
右京	−	0.20	−	0.60	1.80	−	−	−	−	−	−	−	1.00					
伏見	−	−	0.43	0.43	6.57	−	0.14	−	0.71	−	−	−	−					
西京	−	−	0.20	0.20	9.60	0.20	−	−	−	−	0.40	−	−					
京都市計	−	0.02	0.14	0.28	3.23	0.05	0.02	0.02	0.23	−	0.05	−	0.10	−	−	−	−	−

※1　インフルエンザは，鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが，新型インフルエンザのうち，A/H1N1については含む。
※2　細菌性髄膜炎は髄膜炎菌，肺炎球菌，インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。
※3　クラミジア肺炎はオウム病を除く。
※4　感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第19週

年齢階級，疾病別報告数　　2022年5月9日～2022年5月15日　　データ入手日:2022年5月18日

京都市 男女合計	年齢1 年齢2 年齢3 年齢4	総数 総数 総数 総数	～5ヶ月 ～5ヶ月 ～5ヶ月 0歳	～11ヶ月 ～11ヶ月 ～11ヶ月 1歳-	1歳 1歳 1歳 5歳-	2歳 2歳 2歳 10歳-	3歳 3歳 3歳 15歳-	4歳 4歳 4歳 20歳-	5歳 5歳 5歳 25歳-	6歳 6歳 6歳 30歳-	7歳 7歳 7歳 35歳-	8歳 8歳 8歳 40歳-	9歳 9歳 9歳 45歳-	10歳- 10歳- 10歳- 50歳-	15歳- 15歳- 15歳- 55歳-	20歳- 20歳- 20歳以上 60歳-	30歳- 30歳- 65歳-	40歳- 40歳- 70歳以上	50歳- 50歳-	60歳- 60歳-	70歳- 70歳以上	80歳以上
インフルエンザ (※1)	年齢1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
RSウイルス感染症	年齢3	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽頭結膜熱		6	－	1	5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		12	－	－	－	－	4	1	1	－	2	－	1	－	－	3						
感染性胃腸炎		139	1	8	15	13	10	12	7	10	9	9	7	19	6	13						
水痘		2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－						
手足口病		1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝染性紅斑		1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		10	－	3	6	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		2	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

年齢階級，疾病別定点当り報告数

京都市 男女合計	年齢1 年齢2 年齢3 年齢4	総数 総数 総数 総数	～5ヶ月 ～5ヶ月 ～5ヶ月 0歳	～11ヶ月 ～11ヶ月 ～11ヶ月 1歳-	1歳 1歳 1歳 5歳-	2歳 2歳 2歳 10歳-	3歳 3歳 3歳 15歳-	4歳 4歳 4歳 20歳-	5歳 5歳 5歳 25歳-	6歳 6歳 6歳 30歳-	7歳 7歳 7歳 35歳-	8歳 8歳 8歳 40歳-	9歳 9歳 9歳 45歳-	10歳- 10歳- 10歳- 50歳-	15歳- 15歳- 15歳- 55歳-	20歳- 20歳- 20歳以上 60歳-	30歳- 30歳- 65歳-	40歳- 40歳- 70歳以上	50歳- 50歳-	60歳- 60歳-	70歳- 70歳以上	80歳以上
インフルエンザ (※1)	年齢1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
RSウイルス感染症	年齢3	0.02	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽頭結膜熱		0.14	－	0.02	0.12	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.28	－	－	－	－	0.09	0.02	0.02	－	0.05	－	0.02	－	－	0.07						
感染性胃腸炎		3.23	0.02	0.19	0.35	0.30	0.23	0.28	0.16	0.23	0.21	0.21	0.16	0.44	0.14	0.30						
水痘		0.05	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.05	－	－	－						
手足口病		0.02	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝染性紅斑		0.02	－	－	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		0.23	－	0.07	0.14	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		0.05	－	－	－	－	－	0.02	0.02	－	－	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		0.10	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.10	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

※1　インフルエンザは，鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが，新型インフルエンザのうち，A/H1N1については含む。
※2　細菌性髄膜炎は髄膜炎菌，肺炎球菌，インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。
※3　クラミジア肺炎はオウム病を除く。
※4　感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第19週

週，疾病別報告数　　データ入手日:2022年5月18日

京都市　　男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ（※1）	–	–	–	–	–	–
RSウイルス感染症	–	–	2	1	–	1
咽 頭 結 膜 熱	–	–	2	5	1	6
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	25	17	23	8	12
感染性胃腸炎	76	86	119	127	94	139
水　　痘	–	6	4	6	4	2
手 足 口 病	–	–	–	2	2	1
伝 染 性 紅 斑	2	–	–	–	2	1
突発性発しん	7	7	4	8	7	10
ヘルパンギーナ	1	6	1	2	–	–
流行性耳下腺炎	–	–	1	1	1	2
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–
流行性角結膜炎	1	1	–	2	2	1
細菌性髄膜炎（※2）	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎（※3）	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（※4）	–	–	–	–	–	–
合　　計	97	131	150	177	121	175

週，疾病別定点当たり報告数

京都市　　男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ（※1）	–	–	–	–	–	–
RSウイルス感染症	–	–	0.05	0.02	–	0.02
咽 頭 結 膜 熱	–	–	0.05	0.12	0.02	0.14
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.23	0.58	0.40	0.53	0.19	0.28
感染性胃腸炎	1.77	2.00	2.77	2.95	2.19	3.23
水　　痘	–	0.14	0.09	0.14	0.09	0.05
手 足 口 病	–	–	–	0.05	0.05	0.02
伝 染 性 紅 斑	0.05	–	–	–	0.05	0.02
突発性発しん	0.16	0.16	0.09	0.19	0.16	0.23
ヘルパンギーナ	0.02	0.14	0.02	0.05	–	–
流行性耳下腺炎	–	–	0.02	0.02	0.02	0.05
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–
流行性角結膜炎	0.10	0.10	–	0.20	0.20	0.10
細菌性髄膜炎（※2）	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎（※3）	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（※4）	–	–	–	–	–	–
合　　計	2.33	3.12	3.49	4.27	2.97	4.15

※1　インフルエンザは，鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが，新型インフルエンザのうち，A/H1N1については含む。

※2　細菌性髄膜炎は髄膜炎菌，肺炎球菌，インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3　クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4　感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。